

クロピベットを用いて加え、混合し、同様に操作したものを対照液として、波長820nmにおける吸光度OD<sub>T</sub>を測定する。別に、試料対照液について、試料反応液と同様に操作し、吸光度OD<sub>B</sub>を測定する。

1 g 又はmL中のフィチン酸分解力単位＝

$$\frac{(OD_T - OD_B) \times F \times 40 \times \frac{1}{15} \times \frac{1}{W} \times Z}{F : \text{検量線から求めた吸光度差 1 に対応するリン酸イオン濃度 } (\mu\text{mol/mL})}$$

W : 試料採取量 (g 又はmL)  
Z : 希釈倍率

検量線の作成

105℃で2時間乾燥させた後、デシケーターで保存したリン酸二水素カリウム0.612 g (0.6115~0.6124 g) を量り、水を加えて溶かし、500 mLの全量フラスコに入れ、更に水を標線まで加えて500mLとする。

この溶液 2 mLを全量ピベットを用いて量り、200mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて200 mLとし、標準液 S<sub>1</sub>とする。標準液 S<sub>1</sub>を順次水で正確に2倍、4倍、8倍及び16倍に希釈し、それぞれ標準液 S<sub>2</sub>、S<sub>3</sub>、S<sub>4</sub>及びS<sub>5</sub>とする。

各標準液2.0mLをマイクロピベットを用いて12×150mmの試験管に入れ、発色液2.0mLをマイクロピベットを用いて加え30秒以内に混合し、50±0.5℃で15分間放置した後、室温まで放冷する。試料溶液と同様に操作法に従い、OD<sub>S1</sub>、OD<sub>S2</sub>、OD<sub>S3</sub>、OD<sub>S4</sub>及びOD<sub>S5</sub>を測定する。リン酸イオン濃度を縦軸に、測定したOD<sub>B</sub>との吸光度差 (OD<sub>S1</sub> - OD<sub>B</sub>)、(OD<sub>S2</sub> - OD<sub>B</sub>)、(OD<sub>S3</sub> -

OD<sub>B</sub>)、(OD<sub>S4</sub> - OD<sub>B</sub>) 及び (OD<sub>S5</sub> - OD<sub>B</sub>) を横軸にとり、検量線を作成する。

7 (略)

8 各飼料添加物の成分規格及び製造の方法等の基準

(1)~(138) (略)

(139) フィターゼ

フィターゼ (その1)~フィターゼ (その2の(5)) (略)

フィターゼ (その2の(6))

ア 製造用原体

ア) 成分規格

酵素力単位 本品は、酵素力試験を行うとき、1 g中に200,000フィチン酸分解力単位以上を含む。

物理的・化学的性質

① 本品は、黄色~褐色の粉末又は粒子である。

② 本品の水溶液又は水懸濁液 (1→100) のpHは、4.0~5.0である。

③ 本品は、pH2.5~5.0において最大の酵素活性を有する。

純度試験

① 鉛 本品1.0 g (0.95~1.04 g) を量り、鉛試験法 (原子吸光度法第1法) により鉛の試験を行うとき、その量は、5 µg/g以下でなければならない。

② ヒ素 フィターゼ (その1) 製造用原体の純度試験②を準用する。

③ 抗菌活性 フィターゼ (その1) 製造用原体の純度試験③を準用する。

7 (略)

8 各飼料添加物の成分規格及び製造の方法等の基準

(1)~(138) (略)

(139) フィターゼ

フィターゼ (その1)~フィターゼ (その2の(5)) (略)

(新設)